

学部 の 窓



名城大学
都市情報学部

CONTENTS

01 特集

分析力と創造力で究めるまちづくりと観光

06 コラム

名城大グローバル教育 REPORT

07 専任教員インタビュー

学びを深める専門講義

14 ゼミ・講師紹介

個性豊かな 26 のゼミナール

22 卒業生の今

24 気になるホントの就職活動体験談
先輩に聞いてみた！



名城大学 都市情報学部

学部の窓



TOWN DEVELOPMENT & TOURISM

特集

分析力と創造力で究める まちづくりと観光

人々がさまざまなまちを行き交い、情報の交流を生み出す「観光」。
観光は、とても裾野の広い地域の一大産業です。観光を通じた地域
活性化、地方創生を長期的に成功させるための観光政策など、観光
による地域振興や地域再生も今、広がっています。

都市情報学部では、観光系科目の充実、そして2022年入学者から
ツーリズム分野におけるキャリア認証プログラムをスタートしました。
情報科学に裏打ちされたまちづくりと観光の専門性を学べる学部と
して、進化を続けています。

特集

都市情報学部ならではの 観光学 × まちづくりとは？



都市情報学部の 観光系科目が充実

経済学や行政学、地域学、環境学、情報科学、データサイエンスといった知識を身につけられる文理融合の都市情報学部は、2024年に学部開設30周年を迎えます。近年は情報処理技術の修得にも一層注力し、実践的なフィールドワークとの両輪で、都市問題の解決や未来のまちづくりのための広い視野と分析力、創造力を学んできました。本学部が「観光」というキーワードを取り入れ始めたのは実は20年ほど前、2006年のカリキュラム改正のタイミングで、現在の「観光の政策」「観光のサービス」に繋がる講義がその頃から続いてきた歴史があります。そして、近年の観光に関する社会的意識の高まりを鑑みて、2022年4月からは専任教員を迎えて、観光系科目は全9科目18単位へと充実しました。2022年入学者からは、ツーリズム分野におけるキャリア認証プログラムがスタートしています。

2020年、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大という未曾有の事態により、世界中で大きな変化が起き、もちろん観光業も大打撃を受けました。一方で



お話を聞いた人

都市情報学部

大野 栄治 教授

【専門分野】土木計画学、プロジェクト評価
大学院担当 都市情報学研究科
都市情報学専攻（修士・博士後期）



コロナ禍を経て社会全体のデジタル化の加速により、ライフスタイルだけでなく人々の価値観までも変化し、職住近接に捉われない暮らし方や働き方が急速に広がりました。現在、観光需要も徐々に以前と同水準に戻りつつあり、インバウンド需要に関していえばパンデミック前の水準に回帰するどころか、2024年はさらにそれを超えていきそうな勢いをみせています。コロナ禍を経て、観光やまちづくりの考え方、人々の価値観にも大きな変化が現れていると感じています。

1年次から観光に触れ 徐々に専門性を 高めていく

都市情報学部の観光系科目は、まずは一年次の教養部門「世界遺産とツーリズム」から始まります。これは観光に興味

を持ってもらう入口として、わかりやすく魅力的な観光資源である世界遺産を取り上げます。2年次ではもう少しミクロな視点で「観光の政策」「観光とまちづくり」を学びます。データ分析の方法については3年次以降で詳しく触れていきますが、その前段階として2年次で「フィールド調査の方法」を履修します。これは講義だけでなく演習や調査を含む実践的なプログラムで、3年次以降に学ぶデータ分析の必要性を肌で感じる機会として、まずはいきなりまちに飛び出して調査を体験してみよう！というステップを踏んでいます。そうした経験を経て、3・4年次の「プロジェクトの評価」や「データサイエンス」で、観光政策の費用便益分析、ビッグデータ統計処理の理論と応用を学んでいきます。さらに「観光のサービス」「観光と産業」「観光の資源」といった講義で、観光を取り巻くあらゆる仕組みと現状を、事例を通して知り深めていく流れです。

分析力×創造力で考える 観光まちづくり

都市情報学部が目指す観光系人材は、大別してふたつあります。まずは「観光のもつ魅力や可能性を自ら発掘し、まちづくりに活かすことのできる人材」。そして「情報技術を身につけ、データに基づいた観光政策の分析や提案のできる

人材」です。

観光資源や地域の現状からやみくもに解決策を考えるだけではなく、目の前の問題に向き合い、正しく掘り起こし、その問題解決のために必要な情報を得る視点や方法論を学びます。統計学に基づく分析手法を身につけてはじめて、根拠のあるデータをもとにした新たな創造を生み出すことができます。これは、今までありとあらゆる都市問題に向き合ってきた都市情報学部だからこそ、学び深められる学問だと確信しています。

先行する他大学や専門学校等にも観光系の学部は存在しますが、それらの多くは世界遺産などの観光資源やそのビジネス、文化交流等といった側面の、観光知識を深める学部が多いと感じています。もちろんそれを否定するつもりはありませんし、とても大切な視点ではありますが、30年間、情報科学の知識に裏打ちされた「まちづくり」を究めてきた都市情報学部が考える観光は、もう一歩先を目指しています。都市を見つめる総合的知識とバランス感覚を併せ持つことで、地域の課題や問題を見つけ出す力、そこから解決へと導く提案を考えられる力が発揮できます。観光を活用した持続可能な地域づくりを考え、幅広い視点から「まち」を見つめることのできる人材。これが、名城大学の都市情報学部ならではのと思っています。

Fieldwork Report

名古屋市内の観光地で フィールド調査を実施！

2023年10月21日、名古屋城や揚輝荘など市内の観光地で、フィールド調査を行いました。これは「フィールド調査の方法」の講義の一環として行われたもので、この日は名古屋まつりが開催されていたこともあり、多くの人が行き交う街なかでアンケート調査を行いました。アンケートで得たデータを分析し、名古屋市に「歴史資産を活用した魅力づくり」を提案しました。



亀井 涼佑さん

最初はなかなか上手に声が掛けられず、想像以上に難しさを実感しました。同時に、仲間と協力し合うことの大切さも感じ、いい経験になりました。

声を掛けるタイミングや質問の仕方、回答に詰まった際の誘導など、スムーズに答えていただくための小さなテクニックをたくさん経験できました。



岡田 まどかさん

都市が抱える問題を 解決する視点と考え方

それぞれの都市、それぞれの地域が抱える問題はさまざまです。観光による地域活性化に取り組む地域にとっては「観光客を増やす」ことが目下の課題だと思いますが、もともと認知度の高い観光地となると、活性化や集客増とは異なる問題に悩んでいるケースがあります。たとえば、観光客の急増による公共交通機関や道路の混雑、観光施設の増加による景観の悪化、観光客によるゴミ捨て問題の深刻化といった、いわゆるオーバーツーリズム問題です。

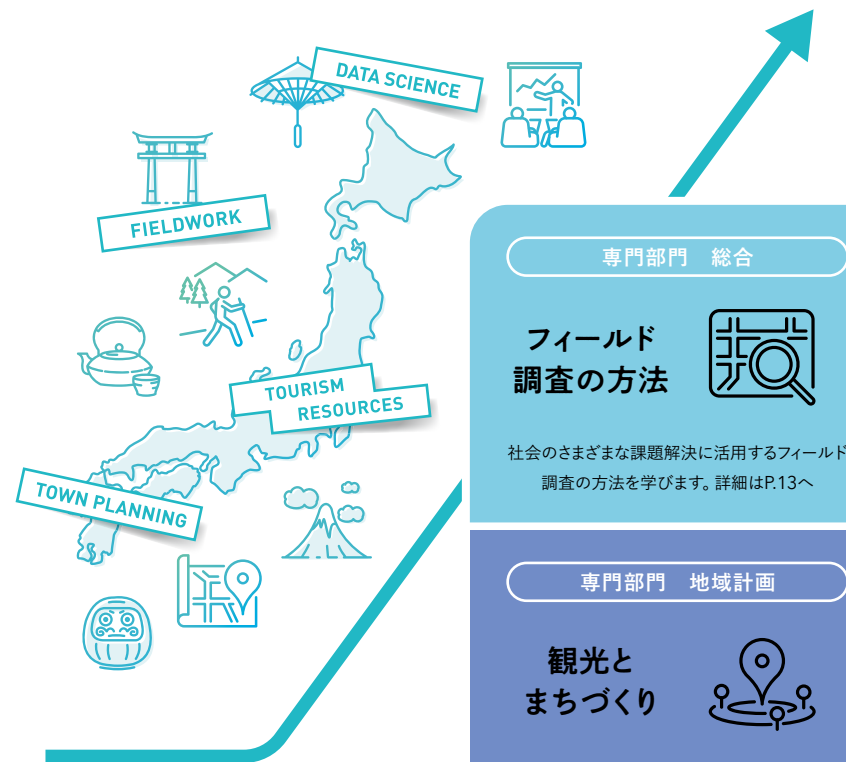
これにより、観光地や地域住民、さらには観光客自身に悪影響を及ぼす現状があるため、そうした地域にはオーバーツーリズムの抑制への取り組みが必要です。

都市ごとに抱える問題が異なる点を念頭に置き、それぞれの観光地で発生する問題をどう解決に導いていくか、その問題自体を見つけ出す分析力も必要です。

都市情報学部には、「経済・経営」「財政・行政」「地域計画」「開発・環境」「情報・数理」という5つの専門科目群があります。観光学は、この5つの科目群すべてにわたり、幅広い科目群を線で繋ぐような存在です。たとえばオーバーツーリズムにおいて重要となる、交通や環境といった学問についても、専任教員から学ぶことができるのが、都市情報学部の強みです。また、ビッグデータの特性を活かして人の行動パターンを把握・分析することで、問題解決への近道になります。多面的かつ学術的な側面を持った観光学、そして観光を核としたまちづくりを学べる、そんな都市情報学部へとさらに進化していきたいと考えています。

9 情報科学に裏打ちされた まちづくりの専門性を高める の観光系科目群

観光のもつ魅力や可能性を自ら発掘し、まちづくりに活かすことのできる人材、そして情報技術を身につけ、データに基づいた観光政策の分析や提案ができる人材を育成するために、1年次から観光系科目を学び深めていきます。



専門部門 総合

フィールド調査の方法

社会のさまざまな課題解決に活用するフィールド調査の方法を学びます。詳細はP.13へ

専門部門 地域計画

観光とまちづくり

地域ごとの観光を活用した「地域づくり」と「まちづくり」を考えます。詳細はP.10へ

専門部門 財政・行政

観光の政策

政府による観光政策の歴史と、取り組みの事例と課題について、事例と共に知り深めます。

専門部門 総合

データサイエンス

観光関連ビッグデータの統計処理の理論と応用について学びます。AIについても触れます。

専門部門 開発・環境

プロジェクトの評価

観光政策の費用便益分析の理論と応用、プロジェクトの妥当性を評価する方法を習得します。

専門部門 地域計画

観光と産業

観光産業の立地と地域経済の活性化、地域の産業振興に観光がどう寄与するのかを考えます。

専門部門 開発・環境

観光の資源

人を惹きつける観光資源の発掘、歴史や文化や自然について学び、考えていく講義です。

専門部門 経済・経営

観光のサービス

地域を訪れた旅行者に提供する、さまざまな観光サービスの経済学・経営学を学びます。

1年

2年

3・4年

さらに!

ツーリズム分野のキャリア認証プログラムがスタート!

これらの観光系科目の導入に合わせて、都市情報学部独自のキャリア認証プログラムがスタート。キャリア認証とは、卒業後に社会人として求められる専門的スキルの習得をいち早く認定する制度で就職活動等に役立ちます。右記の5つの要件を満たすことで「キャリア認証プログラム(ツーリズム分野)」の修了証が交付されます。

- ① 観光系科目9科目のうち8科目の単位修得
- ② キャリアアップ講座Ⅰ・Ⅱの単位修得
- ③ ツーリズム関係団体でのインターンシップを行い単位修得
- ④ 世界遺産検定3級以上の取得
- ⑤ プランナーまたはアナリストコース修了の要件を満たす

先生たちに聞いてみた!

まちづくり×観光の 注目キーワード



Case.1

環境保全×観光

森 龍太 先生

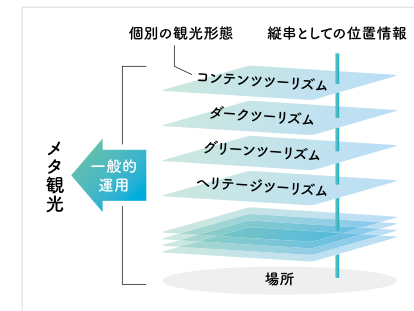


里山保全活動などの環境保全、農業振興といった地域課題と、観光を掛け合わせる方法は、今後さらに加速していくと思います。具体的な事例として挙げるなら、都市住民に耕作に関わってもらいながら棚田を保全する「棚田オーナー制度」。農林水産省からも推進されている政策です。

Case.2

メタ観光

大野 沙知子 先生



観光の魅力は文化遺産・自然遺産を知るだけでなく、アニメや映画の聖地巡礼、農業や漁業の体験など様々です。どんなテーマを発掘してどう伝えるか?位置情報を活用して魅力や価値を重層的に見える化するメタ観光の仕組みは、未来の観光を考えるうえで、とても参考になります。

Case.3

レスポンスブルツーリズム

大野 栄治 先生



観光の地域課題として、オーバーツーリズム対策からサステナブルツーリズム、そしてこれからは「レスポンスブルツーリズム(=責任ある観光)」が重要視されていくでしょう。これは、観光客自身が意識や行動に責任を持つことで、より良い観光地形成につながる考え方です。

Message

観光を学び、深めることで未来のまちをつくる人に

「観光」や「旅行」という言葉には、余暇を楽しむようなイメージを持っているかもしれません。もちろんそれも間違いではないですが、きっと学生たちが思う以上に観光というのは自由なもので、あらゆる事柄に影響力があり、同時に大きな可能性を秘めています。観光には、その土地の産業や経済を動かし、魅力を掘り起こす力、地域の課題を解決し、活性化していくヒントが眠っています。固定観念にとらわれず、幅広く興味をもって学んでほしいと思っています。

都市情報学部で観光を学ぶことで、つながる未来はとても広く大きなものです。観光業や旅行・旅客業、

接客業などの民間サービス業に従事したいという人はもちろんですが、それ以外にも行政職やコンサルタント、NPO、さらには分析を得意とする情報技術者までを含むIT関連職まで、幅広い分野で活躍できる知識と技術、そしてその考え方や経験が身につくと思います。地域創生の考え方が広く定着した今、こうした人材のニーズは今後高くなっていきます。これからの都市と社会を考えるにあたり、とても重要なキーワードである「観光」を学ぶことを通して、未来のまちをもっと明るくしていく力を、ぜひ都市情報学部で身につけてください。

都市情報学部生が躍進！
名城大学短期英語研修
カナダ語学留学

NUS Enterprise Summer Programme in Entrepreneurship

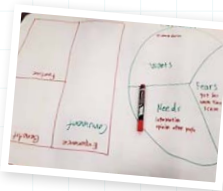
シンガポール起業家
養成支援プログラムへ
2023.7/11～7/22

世界でも先進的なスタートアップ支援の実績を持つ、シンガポール国立大学(NUS)。
2023年7月に、NUS Enterpriseによる起業家養成支援プログラムが行われました。愛知
県からの派遣人数は僅か3名という狭き門でしたが、都市情報学部4年の中川雅新さんが
見事選抜され、シンガポール国立大学での濃厚で貴重な12日間を体験しました。名城大
学が注力しているグローバル教育。都市情報学部の学生も、世界へチャレンジしています。

こんなことを学びました！

7/13 ①

初日はアイデアを出し合うワークショップに参加。すべて
英語で進んでいくのはもちろん、高度な表現も多く出て
くるため、理解に精一杯であり発言できませんでした。



7/13 ②

異文化交流をテーマに、各民族の特徴を分析。
「あなたのアイデンティティは国家や民族で構成されているが、国家や民族が
そのままあなたを反映するわけではない」、つまりステレオタイプで判断する
のではなく、目の前の個人を捉えることが重要だという話に心に残りました。

7/14

マイクロソフト社への社会見学！
chatGPTと連携したニュースも新しく、注目している
企業のひとつです。生成AIに関する取り組みや、先進
事例などを学びました。ローコードツール「Microsoft
Power Platform」を使い、実際にテキストメッセージ
だけでアプリケーションをつくる工程を見学しました。



7/17

愛知県人会代表、名古屋大学特任教授の今泉寛
さんにお会いしました。今泉さんはMBAを取得して
いる方で、卒業後にどのようにMBA取得を目指せ
ばいいか、その後のキャリアなど具体的なアドバイ
スをいただきました。



7/20

最終発表前のプレデモDAY。自分たちのアイデアと他社を比較する資料をつ
くっていましたが、メンターから「それでは弱い」と指摘を受け、サブスクに焦
点を当てて比較する内容に変更しました。

7/21

実際に外部からアントレプレナーの方をお招きし
て、ビジネスアイデアを発表する最終日。僕たちのグ
ループはお金を節約するための貯金アプリのアイデ
アを発表。ただ僕は緊張のあまりまったく発言でき
ず終わってしまいました。終了後は打ち上げがあり、
仲間とたくさん写真を撮りました！



シンガポール国立大学(NUS)とは
1905年に設立された総合大学。QS世界大学ランキングはアジア
No.1、世界No.11。愛知県は「スタートアップ支援分野における
No.1」をNUSと締結し、支援事業を展開。「NUS
連携協力に関する覚書」をNUSと締結し、支援事業を展開。「NUS
Enterprise」はNUSが設立した機関で、世界で活躍する学生や起業家
を多数育成してきた。

体験学生インタビュー

NUSでの体験を振り返って

今回はカナダでの語学留学とは全然違い、かなり
実践的で高難度のプログラム。All Englishで、
それかなりのスピードでどんどん進んでいくの
で、最初はしがみついていくのに精一杯でした
が、レベルの高い環境に身を置いて経験を積ん
だことで、視野がぐんと広がりました。帰国後、起
業に興味があったので、県のスタートアップ支援
拠点「PRE-STATION Ai」へも行ってみました。
今は就職から大学院進学へ進路
変更。まずは研究に専念し、将来
は起業の道も探っていきたい
と思っています。

都市情報学部 4年
中川 雅新さん



愛知県よりエール

中川さんは参加前からとても意欲的でしたが、こ
のプログラムを通じてより積極性が増したように
感じました。同じように起業に興味のある仲間と
出会い、こうした場所に身を置くことは、かけがえ
のない経験になると思います。少しでも起業に興
味のある人は、語学力を磨きつつ、
ぜひチャレンジしてみてください！

愛知県 経済産業局
革新事業創造部 海外連携推進課
内藤 志保さん



気づき・学び・発見！

起業のイメージが変わった！

以前は起業に対して「お金稼ぎのため」「リスクが大きそう」という
印象でしたが、起業家の方から「お金稼ぎのためではなく、世の中
の不満や足りないところを補い人々を幸せにしたい」という熱い
想いを聞くことができ、起業へのイメージがガラリと変わりました。

人生を変えてくれた出会い

アグレッシブな学生とたくさん出会い、交流できました。世界各国か
ら優秀な学生が集まっているので、議論のスピードの速さやもの
見方の鋭さなど、話しているだけでも学びが多く、自分の世界がぐ
んぐん広がっていく感覚があり、とてもワクワクした12日間でした。



※アントレプレナーシップ…チャレンジ精神、創造性、探求心等の「起業家精神」や、情報収集・分析力、判断力、実行力、リーダーシップ、コミュニケーション力等の「起業家的資質・能力」。

専任教員インタビュー

学びを深める
専門講義

現代都市が抱える問題を解決する
「都市情報学」。

数多くの講義の中から6 講義をピック
アップし、講義内容や学びを深める
ヒントについて紹介します。

専門
講義



P08

企業と会計 | 会計学を武器にして社会を生き抜く力を
島田 康人 教授

P09

都市と国際関係 | リアルな国際関係を知り難民支援活動への一歩を
稲葉 千晴 教授

P10

観光とまちづくり | 観光を活用した持続可能なまちづくり
森 龍太 助教

P11

地域環境の保全 | 現場を歩きながら地域環境の未来を考える
小池 聡 教授

P12

評価のOR | “見方は味方” 問題解決の手法と考え方
杉浦 伸 教授

P13

フィールド調査の方法 | 観光地に飛び出してリアルな声を聞く経験を
大野 沙知子 助教

LECTURES



会計学を武器にして 社会を生き抜く力を

島田 康人 教授

Prof. Shimada Yasuhito

企業と会計

3年次前期配当科目／専門部門（経済・経営科目群）

企業会計の基本や簿記の基礎知識を学ぶ

— この「企業と会計」という講義について教えてください。

企業会計の役割には大きく2つあります。ひとつ目は「企業の利害関係者に対する企業業績の開示」、ふたつ目は「企業経営を支援するための会計情報の測定」です。

この「企業の会計」は、お金や利益の重要性を理解しながら、会計学を中心に会計について学び、**ビジネスマンの素養として大切な、会計の基礎と簿記の理解**を目的とした講義です。

会計の基礎的な原則からはじまり、企業会計の役割についての理解、簿記の基礎知識や手続き、決算書の読み方・考え方などを実践的に学び進めます。さらに、近年重要性が高まっているキャッシュフロー会計にも触れていきます。グローバル化の影響で、日本でも国際的な会計基準が採用され、関連法律や金融分野が変化しつつあります。直近の経済情勢や法律の要素も取り入れながら、日本の会計制度の変化や国際的な動向について解説します。時には、企業の不祥事や会計関連の時事問題もあわせて紹介しています。これは、単なる「計算」とどまらず、**会計学の本質や意義を理解し実践的な学びをした学生たちが、社会に出て遭遇するあらゆる場面で役立つ知識を持って欲しい**と考えるからです。

会計学の本質を理解し、将来に活かしてほしい

— 講義で大切にしていることはどのようなことですか。

講義では、産業の発展と共に進化してきた会計学の歴史にも積極的に触れています。そうした歴史的背景から会計の発展を理解することで、**会計学の本質を掴み、お金の流れを評価する方法、経済価値の測定について自ら考える力**がつくと思います。

— 学生には、どんな知識や教養を身につけてほしいですか。

都市情報学部は文理融合の学部で、文系の学生も多いため、この講義でも「計算が難しい」「理解できない」と、簿記に対する苦手意識や先入観を持っている学生も確かに多いです。しかし、**企業会計は社会に出たときに役に立つ、とても重要な知識・教養**です。今はまだ、なかなか実感が得られないかもしれませんが、社会人になって何かにつまづいたとき、「あの考え方が使えるかも」と思い出し、そこから調べ直すことで答えに行き着くかもしれません。会計は単なるお金の計算ではなく、社会をよくしていくための一つの武器です。会計学に限らず、**今学んでいることが何のためになるのか、その背景にある理由や本質を理解しながら、どの学問も意欲的に学びを深めてほしい**と思っています。



リアルな国際関係を知り 難民支援活動への一歩を

稲葉 千晴 教授

Prof. Inaba Chiharu

都市と国際関係

3年次前期配当科目／専門部門（財政・行政科目群）

今、起きていることにまっすぐ目を向けよう

— 「都市と国際関係」では、どのようなことを学びますか。

「都市と国際関係」では、国際社会の基礎や国際体系などを学びますが、今年度は特に難民問題を取り上げています。2022年に始まったロシアによるウクライナ侵略は、今も深刻な事態が続いています。関連する諸外国ではどのような問題があり、日本をはじめとする国々がどのような支援を行っているのか、我々ができることはどんなことか?などを、学生とともに考えています。名古屋市にもウクライナ難民の方が50名ほど住んでいますが、日本の支援とヨーロッパの支援を比べると違いが浮かび上がってきます。机上の国際関係論ではなく、今まさに、どこにどんな人が住んでいて、どんな声を上げているのか、**リアルな国際関係や実地事情にも焦点を当て、難民支援活動へのアクションに繋げていきます。**

我々が日本で安全に生活している一方で、自国から逃れるしかない人々が存在する現実を目に向け、単なる観察者で終わらないよう現実を正しく理解し、その背景を考える力をつけることが、今必要なことではないでしょうか。

— 具体的に、学生はどのような学びを深めていますか。

講義では、国際関係論だけでなく実践的な人道的支援活動の

重要性を示し、今現実に行っている重大な国際関係に関心を持ち、自分に何ができるかを考え、アクションを起こすきっかけになればと思っています。実際に難民支援活動の一環として、**有志の学生やゼミ生と一緒に「杉原千畝ウクライナ難民募金」という街頭募金活動を行いました。**ボランティア活動に参加することは、国際問題を理解するだけでなく、その国や、そこに住む人々への関心を深める良い契機となります。また、日本と他国との国際関係を超えて、将来の生活に必要な価値観や考え方を育むことにも貢献します。**講義や活動を通じて、「自分に何ができるか」という視点から物事を考えられる人**になってほしいと強く願っています。

現代社会を生き抜く力を身につけてほしい

— 都市情報学部で、どんな学びを経験してほしいですか。

今後の日本はグローバル化の進展により、どの業界に就職したとしても外国との関わりは避けられません。転勤や出張で海外に行く機会、日本に住む外国人との交流も増えていくでしょう。国際的な人間関係を築く能力が、今後さらに求められます。学生には**積極的に外国人と交流し、世界への視野を広げることで、現代社会を生き抜く力を身につけてほしい**と思っています。それはきっと、今後の人生の糧になるはずです。



財務会計・入門

桜井 久勝・須田 一幸 著 (有斐閣)

財務会計の入門書で、長く読まれ続けている一冊です。企業の活動に焦点を当てて、財務諸表の作成プロセスをわかりやすく解説しています。多少の基礎知識は必要ですが、言語化が秀逸で理解しやすいので、「企業と会計」の講義を受けて、さらに会計学について理解を深めたい学生におすすめです。

学生の声 /

先生はとても丁寧に優しく、会計の仕組みを理解することの大切さを教えてくださいました。高3で取得した簿記3級は形だけで覚えてしまっているので、知識の理解度が低かったのが悩みでした。この講義で基礎や仕組み、会計の本質を理解できたので、応用問題も得意になりました。簿記や会計は今後必要な知識なので、自分の武器にしていきたいです。

杉本 快舟さん(3年生)





第二次大戦下 リトアニアの難民と杉原千畝

シモナス・ストレルツォーバス著 (明石書店)

第二次世界大戦中、ユダヤ人難民に日本通過ビザを発給し多くの命を救った杉原千畝。千畝の功績についてあまり語られていない、第二次大戦中のリトアニアの状況について、リトアニア人歴史家が読み解いている一冊。このような状況の今こそ、難民支援活動を考えるときにぜひ読んでほしいです。

学生の声 /

稲葉先生の人脈で、外部の大学や公的機関のゲストが講演してくださったことが複数回ありました。国際関係は理解が難しい複雑な分野ですが、先生ご自身の経験や豊富な知識を交えた講義は、大変興味深く、とても理解が深まりました。都市情報という枠を超えて、今後生活していくうえで大切なことを学びました。

木崎 天翔さん(3年生)





観光を活用した

持続可能なまちづくり

森 龍太 助教

Assistant Prof. Mori Ryuta

観光とまちづくり

2年次後期配当科目／専門部門（地域計画科目群）

現場の声から学ぶ、観光を活用した地域づくり

—「観光とまちづくり」の講義について教えてください。

2000年代初頭から、日本では観光が国家的な課題として重要視され、観光立国を推進する取り組みが進められてきました。この講義では、観光振興のあゆみや制度、各地のさまざまな事例をもとに、その特性や課題について解説します。観光を活用した地域づくりやまちづくりを見つめる、長期的かつ持続的な視点を持ってほしいと思います。

— 具体的には、どのような内容で講義を進めていますか。

今年度はゲストスピーチを6回行いました。名古屋市、白川村（岐阜）、氷見市（富山）の方には行政目線での観光まちづくりの話をしてもらい、また民間で観光まちづくりに取り組んでいる方、さらに、それら取材していた元新聞記者の方にもお願いしました。リアルな事例を直接聞くことは、自身の視野が広がるのはもちろん、その地域に関心を持つ一歩目になると思います。座学だけではなく、実際の地域の課題に向き合い、地域ブランドの価値を考えてみるその経験から、「じゃあ、自分の居住地域や故郷はどう？」と思考や観察を広げることにつながります。目の前の課題に対して、観光をひとつのツールにしながら、

常に自分ごととしてまちづくりについて考える力を身につけてほしいと思って講義を進めています。

観光まちづくりに学際的に取り組む力を

— 講義を進めていくうえで、工夫している点などがありますか。

議論を重ねながら最適解を見つけていく経験を積んでほしいという思いから、グループワークを多く取り入れています。学生からは「思いを言語化できるようになった」「考えを数分でまとめてアウトプットする力がついた」という声もありました。初回講義の冒頭に「観光まちづくりは誰が担うべきか？」という問いをした際、大半の学生が「市長や市職員、議員」と答えました。でも最終回の講義後のレポートで同じ問いを投げると「自分」という答えに変わっていました。これは講義で多くの知見を得たことでもあります。やはりゲストスピーカーの皆さんが多くの地域課題を自分ごととして語ってくださったことが大きいと思います。

観光やまちづくりは、特定の学問領域の知見のみでは成り立ちません。さまざまな知見を持ち寄り、学際的に取り組むことで解決に向けて進んでいけると思います。ぜひこの学部で、多くの学問に触れて成長してほしいと思います。

学生の声 /

観光とまちづくりについて相互的に考えられるようになったこと、自分の地域に興味を持てたことが、大きな変化でした。ゲストスピーチでリアルな話をたくさん聞いたことも、とてもいい経験でした。森先生は全員のレポートにフィードバックをくださり、理解度に合わせて授業を進めてくれるので、とてもわかりやすかったです。

羽田野 美侑さん（2年生）



現場を歩きながら

地域環境の未来を考える

小池 聡 教授

Prof. Koike Satoshi

地域環境の保全

3年後期配当科目／専門部門（開発・環境科目群）

地域の変貌を探索し、環境保全について考える

—「地域環境の保全」の講義内容について教えてください。

郊外と農山村、中心市街地といった異なる歴史や環境条件をもつ地域ごとに、それぞれの土地で過去にどんな暮らしが営まれてきたかをリサーチし、そのうえで「今、その地域に求められていることは何か」を、現場に即して検討します。

まず、座学で地域計画の基本として土地利用計画制度について概観し、地域の課題に対してどんな制度的対応が図られてきたかを学びます。そのほか、里山環境を教育に活かした「森のようちえん」等の事例もいくつか紹介していきます。そして全15回のうち3回はフィールドワークを実施し、名古屋市内や岐阜県可児市での里山実習に出かけます。自分の足で歩くことを通して地域空間の変貌を探索し、過去、現在、そして未来の環境保全へと考えを繋げるための観察力と洞察力を身につけます。

地域の過去と今を知り、未来を考える視点を

—フィールドワークでは、どのようなことを学びますか。

今の日本の都市部は、過去の地形が大幅に改変された地域がほとんどですが、幸いなことに名古屋市には、昔の地形や自然を活かしてつくられた地域が比較的多く残っています。たとえ

ば八事や覚王山などの地域は、起伏に富んだ地形からも過去のまちの姿を見つけ出すことのできる貴重なフィールドです。可児市の里山実習では、かつての城下町として形成された元々々利集落へも出かけます。一般的な農業集落とは少し異なる雰囲気集落を歩きながら、里山・里地の空間概念を体感し、地域環境の整備・保全課題を見つけ出します。昔どんな土地だったのかを時代を遡って考えることで、目の前の地域への問題意識を持つことを目的に、座学やフィールドワークを行っています。

この講義では、専門知識を覚えることよりも「現地を歩いた」実感から、環境保全の必要性和そのあるべき姿を肌で感じてほしいと思っています。

— 学生たちには、どんな大学生生活を送ってほしいですか。

学生のうちに、たくさん挑戦して、たくさん失敗しましょう。失敗は恥ずかしいことはありません。得意なことをより深めるのも大切ですが、「できないこと」にも目を向けて挑戦することで、きっと自分の世界がもっと広がると思います。チャレンジを重ねていくことで、自分の限界に直面するかもしれませんが、結果ではなくその挑戦した事実こそが、未来の自分につながる大切な経験と自信になると思います。

学生の声 /

フィールドワークで現地を歩くことで、興味や愛着が湧くのはもちろん、より理解が深まり、まちを見る目が変わりました。先生は講義やゼミなどで、難しいことも噛み砕いてわかりやすく教えてくださいます。Web検索で知った気になるのではなく、実際にその場所に足を運んで目で見ることの大切さを教えていただきました。

山田 力也さん（4年生）





学生におすすめの一冊

観光ブランドの教科書

岩崎邦彦 著(日本経済新聞出版)



従来の観光マーケティングは「来てください」という誘致型が主流でしたが、この本では「行ってみたい!」と客を引きつけるにはどうすべきかを、わかりやすく提示しています。観光におけるブランド構築をテーマに、引力のある地域の創造、持続可能な観光を考える一冊です。



学生におすすめの一冊

地域に学ぶ、学生が変わる

— 大学と市民でつくる持続可能な社会 —
地域と連携する大学教育研究会 編(東京学芸大学出版会)



東京学芸大学と、近隣の市民で考える持続可能な社会について、その活動について記した一冊です。この講義で行っているフィールドワークと似た活動の様子が、東京の郊外を舞台に綴られています。地域との関わりを持ちたい人、環境保全に興味がある人はぜひ読んでみてください。



“見方は味方” 問題解決の手法と考え方

杉浦 伸 教授
Prof. Sugiura Shin

評価のOR
3年次前期配当科目／専門部門（情報・数理科目群）

問題解決における評価と意思決定の数理を学ぶ
— この「評価のOR」という講義について教えてください。

世の中の問題を解決する手法にOR（オペレーションズ・リサーチ）があります。ORとは、限られた資源を有効的に利用して目的を最大限に達成するための意思決定を数学的・科学的に行う手法です。高校までの数学は問題を解くことがメインでしたが、大学では背景のストーリーを理解して、論理を身につけることを重視します。この講義では数学、統計学、数理モデル、アルゴリズムなどを用いた具体的な例題やモデルと理論に基づく話題を積極的に取り上げ、社会問題や経済問題の分析・解決に適用できる力を身につけ、その力の使い方、考え方を学んでいきます。

— 講義でどのようなことを学んでほしいと考えていますか。
前期科目の【評価のOR】のサブタイトルは「評価と意思決定の数理」です。情報（＝評価）をもとに結果（＝意思決定）を導き出す計算方法（＝数理）に焦点を当てています。後期科目の【経営のOR】では、経済経営に関する数理モデルの考え方に焦点を当てます。前・後期にわたる講義を通してORの理解を深め、数理的思考や問題解決の考え方、その手法を身につけてもらいます。社会に出たとき、目の前の問題をどう解決するか、何を基準に意思決定をしていくか、その道筋を知ってほし

いと考えています。
さまざまな視点で、問題や課題を捉える力
— 都市情報学部で、どんなことを学んでほしいですか。
初回の講義から、学生には「見方は味方」と伝えています。異なる視点を持つものごとを捉える“見方”が、どんな場面でも“味方”になってくれる、という意味です。問題解決や意思決定の場面に限らず、日常生活でも視点を多く持つこと、常に別の考え方が存在することを意識してほしいです。

都市情報学部で幅広い学問に触れることは、視点を広げるのにとっても役立つと思います。社会や都市にはさまざまな問題や課題が存在し、それらを解決するためには「何が問題かを見つける力」「解決のための手法を考える力」「そこから学び取る力」が必要だと思います。多様なアプローチを見つけ、評価基準を設定して意思決定を重ねていく、このような数値的な手法がORです。ORは、意思決定のための数学的技術として多くの場面に適用可能です。そうした知識が頭の片隅にあれば、それが学生たちの将来の“味方”になると信じて、講義を進めています。これからの人生できっと役立つものの“見方”を、この学部でさまざまな学問に触れることで身につけてもらえたら嬉しいです。



観光地に飛び出して リアルな声を聞く経験を

大野 沙知子 助教
Assistant Prof. Ono Sachiko

フィールド調査の方法
2年次 集中科目／専門部門（総合科目群）

2年次から、実際にフィールド調査を体験する
— 「フィールド調査の方法」は、どんな内容ですか？

質的・量的な社会調査の理論や技法を理解したうえで、実際に観光地に出向いてフィールド調査を行います。社会課題解決に活かすため、得たデータの分析から企画提案まで、その一連の流れを通した調査の手技を修得します。2023年度に初開講となった講義で、大野栄治先生、森龍太先生、私が主担当となり、調査の準備・実施段階には杉浦伸先生、森杉雅史先生にも入っていただき、5名体制で担当しています。

講義ではまず、社会調査の全貌を概観し、その理論と設計について解説します。量的・質的調査の使い分けや、調査の目的設定、設計方法などを広く学んだのち、実際に調査票を設計する演習も行います。その後、実際のフィールド調査に出かけます。

— 実際のフィールド調査では、どのようなことを行いますか。
今年は本学と包括協定を締結する名古屋市と連携し「歴史資産を活用した名古屋の魅力づくり」をテーマに行いました。市職員から現在の課題についてお聞きしたのち、グループごとに課題を洗い出し、調査票を設計しました。調査は、名古屋城と揚輝荘、久屋大通公園でのアンケート調査で、市内の観光資源の

認知度、施設の活用方法などについて聞き取りました。一般人に突然声をかけるということは、きっと学生が思っていた以上にハードルが高い行為で、勇気を振り絞ってがんばっている姿が印象的でした。机上で理論を学ぶだけでは知り得ない、調査という現場に向き合う姿勢の大切さを、そこにいる全員で実感することができた、そんなフィールド調査だったと思います。

知識と経験を積み重ね、自信を持って「挑む力」を
— 講義を通して、学生にはどんなことを学んでほしいですか。
アンケート実施後は、基礎的な方法で分析して提案をまとめ、グループごとにプレゼンをしました。提案を聞いた市職員の方からは「実践の可能性のあるとてもいい提案」というフィードバックもあり、学生にとって自信につながったと思います。

この講義に限らず、学生には「挑戦する力」をどんどん磨いてほしいと思います。挑む心を強くするのは、きっと都市情報学部で学ぶ理論や知識、そしてこうした現場での経験だと思っています。在学中にそれらを積み重ねていくことで、どんな場面でも自信を持って挑戦や提案ができる人、地域のなかで活躍できる人になれると思います。



学生におすすめの一冊

演習OR 経営と評価のためのOR入門
木下栄蔵/大屋隆生/鈴木敦夫/杉浦 伸 著
(日科技連出版社)

ORの手法をはじめて学ぶ人のための教科書で、モデルの解説をルールとして説明し、例題を示しています。例題には具体的な話題を取り上げており、経営や評価の場面でORを活用するための基礎を身に付けることができます。



学生の声

逃走中のハンターを停止させるボタンを押すべし
か、動かず待つべし。相手が選んだ戦略を踏ま
えて自らが得をする最適反応戦略、全員が一番利
が高くなるためのナッシュ均衡といった、行動の
指針となる考え方が特に興味深かったです。知的
好奇心が刺激される講義で、先生の「見方は味方」
という言葉が印象に残っています。



樋口 果波さん(3年生)



学生におすすめの一冊

はじめての社会調査
三井さよ/三谷はるよ/西川知享/工藤保則 編
(世界思想社)

質的調査と量的調査をバランスよく学べる、社会調査の入門書です。この本では、社会調査のことを「他者を知る営み」と考え、他者をより知ることを通して社会の本当の姿を発見していく、その方法をやさしく紐解いてくれています。社会調査を学び始めたい人に最適です。



学生の声

観光分野に興味があり、2年次の段階からフィールド調査を経験できる良い機会だと思い、受講しました。観光地でのアンケート調査では、想像以上に根気があることを身をもって学び、とてもいい経験になりました。少数者チームでのグループワークでは、協調性が身に付くとともに、大きな達成感もありました。



村松 美那さん(2年生)

個性豊かな 26 のゼミナール

学生は3年次から、関心のあるテーマのゼミナールに入ります。教授が専門とする学問や特定のテーマについて研究や討論を重ねるゼミ。教授の指導のもと、少人数制で主体的・能動的に学びを深めます。ここでは、都市情報学部個性豊かな26のゼミナールを紹介します。

PICK UP SEMINAR

経済・経営

島田ゼミナール

会計情報と企業経営

企業は様々な利害関係者へ経営状態を開示伝達する責任があります。その会計責任において開示伝達されるのが、企業の会計情報です。経営状態を知るだけでなく、経営のあり方が企業業績にどう反映されているかを分析できます。島田ゼミでは、実際の企業の会計情報を分析することで会計の重要性について理解します。



島田 康人 教授

経済・経営

杉浦(真一郎)ゼミナール

人文地理学

日本の都市や地域で生じている様々な社会的・経済的現象を、地域差や地域間の結びつきといった地理的視点から捉えます。公的統計はもちろん、自身によるアンケートや現地調査を通じて得られた様々なデータから地域の実情について把握・分析し、それらを表現（地図化／図表化／文章化）する方法を学びます。



杉浦 真一郎 教授

経済・経営

鈴木(淳生)ゼミナール

身のまわりの都市問題を数理モデルにより解析する

身のまわりの都市に関するデータを収集・分析し現状を把握し、問題を明らかにします。それらの問題を、数学を用いてモデル化して解くことが目的です。①関心のあるテーマを見つける、②研究をおこなう、③卒業論文を作成する。現実のデータから現状を分析し、都市問題の解決をはかることの重要性を身につけます。



鈴木 淳生 教授

経済・経営

宮本ゼミナール

地域経済学

ゼミではまず、各地方自治体が抱える問題を発見し、問題に対してどのような政策を行なっているか理解します。次に、その政策が適切かどうかを、データを分析することで判断します。最後に、政策の改善点を提案します。根拠を持って自分の意見を主張する力を身につけるとともに、政策を実施する難しさを理解します。



宮本 由紀 教授

財政・行政

稲葉ゼミナール

国際関係論

世界中の都市を学び、歩き、言語・文化・社会を学び、都市・地域・国家を理解するゼミです。文献を何冊も読むことで、世界中の都市や、日本との関係などを紐解きます。外国を学ぶことで日本をより深く理解し、外国との架け橋になることができます。ヨーロッパやアメリカ、オセアニア等へ、毎年数名が留学しています。



稲葉 千晴 教授

財政・行政

手嶋ゼミナール

公共政策の観点から都市問題を解決する

都市や地域の諸課題を公共的視点から捉え、解決する手法・方策を探求します。心豊かに安心して暮らせる社会の実現には、国や地方自治体の活動が不可欠であり、多くの人々が納得できる公共部門の諸制度のあり方が問われます。公平・公正で効率的な制度のあり方を理論的に検討するとともに、実現可能な政策案を考えます。



手嶋 正章 教授

財政・行政

赤木ゼミナール

政府や地方自治体の経済活動

政府や地方自治体の財政制度の現状と問題点、その基礎となる理論を理解し、今日的な政策を考察します。そのために、社会的インフラなどの公共支出論、消費税や所得税などの租税論、国の借金については公債論を読み解きます。都道府県や市町村の役割などの地方財政論等を、制度と理論の両面から学習し、理解を深めます。



赤木 博文 教授

財政・行政

鎌田ゼミナール

社会保障と社会福祉

人は、市場経済という競争原理の中で生涯を生きていかなければなりません。その中で「自分らしく生きる」「生き甲斐を感じる人生を送る」社会の仕組みを考える必要があります。生き甲斐を考えることは、心の視点から物事をとらえること。ふと不安になったり、困難から逃げてしまったりする理由が分かるようになります。



鎌田 繁則 教授

財政・行政

昇ゼミナール

地方自治・まちづくり

地方自治の仕組み・構造等を、理論と具体例の双方から探ります。地方自治の仕組みとまちづくりの関係を知ることで「市民主体のまちづくり」をどうやって実現するのか、福祉やまちづくり系のNPO団体で一日体験をして学びます。これまでのOB・OGは県警察や市町村職員、消防署、NPO団体などに就職し、力を発揮しています。



昇 秀樹 教授

減災社会の実現に向けた 現場力の養成とひと・まちづくり

自然災害による犠牲者ゼロに向けた都市・社会を「まち・ひと・情報」をテーマにデザインします。誰もが災害から安全・安心に暮らすために、被災者や要配慮者に寄り添い、行政・企業・NPO との協働を通じて具体策を提案します。被災地調査を通じて、自ら都市・社会問題を発見し、問いを立て、解決できる「現場力」を身につけます。



柄谷 友香 教授

都市水利用計画

多くの都市で水道水にトリハロメタンという発がん性物質が検出され、飲用水の安全性が懸念されています。このゼミでは、安全な水を安定的に利用できる都市水環境の構築を目指し、数理解析、人工知能等の情報処理技術を駆使して、飲み水の安全性、平常時・非常時の用水確保、水災害に強いまちづくりを追求します。



張 昇平 教授

身体環境共生学

フィールドを通して、地域生態学や環境社会学を学びます。環境文化を活かしたまちづくりは、将来、持続可能な社会の形成に繋がります。「教師に頼らない」「Web の情報は疑う」「自ら考え行動する」が、小池ゼミのモットー。Sense of Wonder の心を持ち続け、頭で理解する前に、身体で環境を感じることが大切です。



小池 聡 教授

21 世紀の都市像の理解と計画論

2050 年頃までの社会の潮流を読み解き、求められる都市像やあるべき計画論を発想し、実現する方策を考究します。①少子高齢化・人口減少 ②情報化社会 ③グローバル化 ④環境意識の高まり ⑤地方分権化・市民社会に着目。メガトレンドの理解のもとで「あるべきもの」「求められるもの」を発想する力を養います。



福島 茂 教授

交通工学・交通計画

交通の現象や性質、人間の行動特性を正しく理解するのが交通工学です。交通工学の知見を生かして効率的な都市交通政策を策定するのが交通計画です。国土計画・地域計画と交通システムを同時に考える学問が「交通工学・交通計画」です。ゼミでは交通現象の理解、課題の抽出、都市問題の解決法という手順で卒論等を進めます。



若林 拓 教授

建築教育・都市環境教育

建築・都市・まちの教育をテーマに、リアルとバーチャル、ローカルとグローバル、専門家と市民・子ども等さまざまな領域を横断し、新しい学びをひらく実験室です。キャンパスやまちなかでの活動を通して、自ら考え実行するプロジェクト・デザインの力と、創造的な学びの場をつくるワークショップ・デザインの力を養います。



田口 純子 准教授

Think Globally, Act Locally

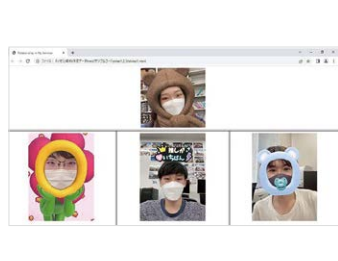
「地球温暖化問題」を筆頭とするグローバルな環境問題を背景として、地域・都市における交通や防災、インフラ整備のありかた、観光や ICT など経済活性化の立案、エネルギーの安定供給と地方の自然環境保全の両立などを考えます。森杉ゼミの研究方向性を定めるうえで「Think Globally, Act Locally」は重要な道標です。



森杉 雅史 教授

Web Programming

Amazon や楽天のようなネットモールの仕組みを学び、オリジナル Web システムを開発するゼミです。Java プログラミングによる業務系 Web システム、e-Learning などの教育系 Web システムの開発技法、Windows アプリケーション開発技法などを習得します。プログラミング能力とシステム構築力を身につけるゼミです。



宇野 隆 教授

観光学・観光動態

「観光立国」を目指す日本。世界遺産等、国内外に誇れる観光資源が増える一方で、COVID-19 の逆風や地球温暖化、縮減社会などの課題も抱え、観光を取り巻く環境は楽観視できない状況です。このゼミでは既存の統計資料や現地調査によるデータを分析しながら、観光を活用した長期的かつ持続的な社会のあり方を考究します。



森 龍太 助教

プロジェクト評価

環境問題をはじめとする都市問題を取り上げ、問題の発見、情報の収集・分析、解決策の提案・評価、成果の発表までを遂行する分析能力とプレゼンテーション能力を習得します。環境政策（カーボン・ニュートラル事業等）、観光政策（オーバー・ツーリズム対策等）、社会資本整備（リニア中央新幹線整備等）の議論も行います。



大野 栄治 教授

景観・環境デザイン

都市計画の分野のひとつ「景観・環境デザイン」を研究します。景観とは、環境に対する視覚からの評価です。私たちの生活はすべて環境のもとに営まれ、視覚は環境の影響を大きく受けます。だからこそ、環境を美しく豊かにすることは非常に大切なことです。「心を育む栄養素」は景観として目から摂取されているのです。



亀井 栄治 教授

数理計画学 Operations Research

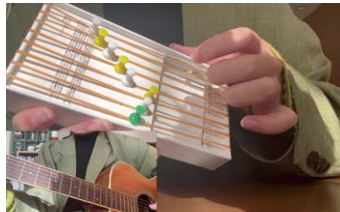
都市の様々な問題・テーマを、数理とモデルという視点、数理計画学、OR などの手法を用いて考察し、卒業研究の完成を目指します。ゼミ活動や卒業研究を通して、都市や社会に関して自らの問題意識をもとに情報の収集・調査・分析・評価を身に付け、論理的に考察して問題を解決するための姿勢・能力を培います。



杉浦 伸 教授

人間行動データの収集・分析・評価

音や画像を対象に、行動に伴って発生する情報や信号の解析・処理技術を学びます。テーマは数学、デジタル信号処理、物理、電気工学、生理学、聴覚、心理、Web技術など多分野。社会を支える情報基盤技術を学び、問題解決のための論理的思考力を獲得することで、問題設定や解決策の提案、実行ができる人を目指します。



ゼミでは「輪ゴムを使った楽器制作」などのプロジェクト課題も行っています



西野 隆典 教授

応用数学

世の中の様々な問題を、数学と情報技術を利用して解決するための理論と方法について研究します。問題を解くための情報もなく、答えが見つからないケースでも探究していきます。数学的手法を学び、身近な疑問やシステムに対して数学的アプローチを行うことで、この理論と方法が、将来問題解決をする際に役立つはずです。



山谷 克 教授

音・音声の分析・評価

身の回りにある音や、人の声である「音声」を対象に研究しています。興味のあることをテーマとし、課題に自主的に取り組むことを目的としています。研究には、音響学の知識や MATLAB のスキルが必要になります。これらはこれまで習ったことがない分野なので、自主的に知識やスキルを習得する姿勢が重要です。



鈴木 千文 助教

知能情報処理

身の回りの諸問題を定義して数理モデルという抽象的な構造物として再定義し、これら进行分析する力を身につけます。同時に、モデルと現実との違いを認識し、理論や技術と社会との関係について考える力を養います。数理モデルや技術系の文章の書き方はもちろん、C 言語やその他のプログラミングについても学びます。



水野 隆文 教授

地域システム計画

地域づくりに必須である【課題設定→データ収集・社会調査→データ分析→政策立案】の一連を習得することを目指しています。特に、実際の社会と乖離した議論とならないように、実地域を対象に、「様々な手法を用いてデータを処理 / 分析して、有用な情報（価値）を引き出す」ことを大切にしています。



大野 沙知子 助教

退官にあたり学生の皆さんへのメッセージ

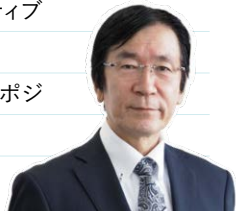
～ 若い時の苦労・努力は成功の基 ～

大学生活での苦労やそれを乗り越えるための努力は、社会人基礎力の養成に役立ち、きっと将来の成功につながります。

趣味やゲーム、バイトに熱中して、それが将来の仕事に繋がる人は極稀です。そう考えると学生時代に好き嫌いに問わず多くの経験をして、自分を磨く必要があるのです。大成している人は運がよいだけでなく、そういう努力をした人です。逆に何の苦労や努力もしていない人は、社会人になり何度かチャンスが訪れても上手く捕まえることができません。なぜなら、嫌いで苦痛と思うことには「情熱」が働かないため、「考え方」もネガティブとなりがちです。

将来を見据えて貴重で短い大学生活をポジティブに捉えて有意義に過ごしてください。

都市情報学部 酒井順哉



2023 年度 専任教員の専門分野と主な研究テーマ

	教授名	専門分野	研究テーマ
経済・経営	島田 康人 教授	管理会計・経営分析	投資と企業経営の分析
	杉浦 真一郎 教授	人文地理学	地方行財政に関する地理学的研究
	鈴木 淳生 教授	数理ファイナンス・金融工学・オペレーションズ・リサーチ	デリバティブの価格付け、都市の OR
	宮本 由紀 教授	地方財政・都市経済学	子育て支援政策に関する実証分析
財政・行政	赤木 博文 教授	財政学・公共経済学	社会資本形成に関する理論的および実証分析、税制のあり方
	稲葉 千晴 教授	国際関係論・国際政治史	国際政治史、日露関係史、北欧現代政治、情報と国際通信
	鎌田 繁則 教授	社会保障論	生活者のための社会保障
	手嶋 正章 教授	公共政策学・経済政策学	地域情報化政策に関する研究、地域政策とまちづくり、財政問題と政策論
	昇 秀樹 教授	行政学・行政法・政治学・地方自治論 等	地方分権の課題と展望、まちづくりの手法、自治体の政策形成、地方自治法解説、地方公務員法逐条解説
地域計画	柄谷 友香 教授	都市防災計画・リスクコミュニケーション	防災・減災社会の実現に向けたひと・まちづくり 広域巨大災害からの被災地の復旧・復興プロセスの解明
	張 昇平 教授	都市水文学・水利用計画	水資源開発計画と水資源管理、都市水環境システムの解析および制御、 湧水と水供給の安定化
	若林 拓 教授	交通工学・交通計画	交通システムの信頼性向上に関する研究、災害時の交通計画、道路案内標識 の経路誘導効果の評価
	田口 純子 准教授	建築教育・都市環境教育	建築・都市・まちに関する創造的学習、生涯学習(子ども教育、市民教育) プロジェ クトデザイン、ワークショップデザイン
開発・環境	森 龍太 助教	観光学・観光動態・環境経済評価	観光資源の保全と開発 観光価値(レクリエーション価値) の計測・評価手法の開発 温暖化による観光地への影響と対策の検討・評価手法の開発
	大野 栄治 教授	土木計画学・プロジェクト評価	公共事業の費用便益分析、環境政策・観光政策の経済評価
	小池 聡 教授	農村計画学	農村地域政策の分析と評価
	福島 茂 教授	都市計画・地域計画・住宅政策	社会経済環境の変容に対する都市計画・居住政策のあり方／グローバル経済に おける地域開発戦略、産業立地をめぐる国際地域間競争／持続可能な地域づ くり：Learning Region アプローチとコミュニティエンパワメント
情報・数理	森杉 雅史 教授	環境経済分析・土木計画学	地球温暖化の被害予測と適応策インフラ事業の経済的評価 再エネ・交通・観光と地域経済の活性化 耐久財的防災グッズの普及と日米比較
	宇野 隆 教授	数学・確率論・情報科教育法	確率多項式に関する研究、従属確率変数の極限定理に関する研究
	亀井 栄治 教授	景観計画・環境デザイン・都市計画	景観計画・環境デザインにおける分析・評価手法に関する研究
	酒井 順哉 教授	医療情報学・手術医学・医療機器安全工学	GS1 標準バーコードによる医療機器本体直接表示推進方策とトレーサビリティ 管理に関する研究／患者に役立つ医療事故再発防止のための4点認証システム の研究／在宅医療・介護のためのオンラインサービス技術導入に関する研究
	杉浦 伸 教授	オペレーションズ・リサーチ 応用数理	数理的意思決定に関する理論的研究 オペレーション・リサーチ、応用数理による都市問題の分析
	西野 隆典 教授	立体音響・音信号処理	三次元音響の収録と再生に関する研究 音声・音響信号を用いた人間と機械とのインタフェースに関する研究
	水野 隆文 教授	知能情報システム工学	スマートコントラクトを含むビジネスモデルの設計、フロントエンド環境で動作 するルールベースシステムの開発、AI システムの経済価値の評価、大規模デー タベースシステムの構築、複雑系ゲームマシンの解析、知識の単一化と一般化 を行うアルゴリズムの開発、感性データの可視化
	山谷 克 教授	応用数学・数値計算	画像や音楽に含まれる幾何学的特長を用いた効率の良い情報削減方法の考案
	大野 沙知子 助教	土木計画学・地域計画	新たなモビリティの社会的形成に関する研究／地域協働型インフラ管理に関す る研究／災害復興における支援のあり方に関する研究
	鈴木 千文 助教	音・音声信号処理	歌声の類似度評価に関する研究

大野 栄治	論文	Mamoru FUJITA, Eiji OHNO, Ryuta MORI, Shin SUGIURA and Masafumi MORISUGI/Proposal of Renewable Energy Project with Community-based Cleanup Activities aiming to Recycling Society/Proceedings of the 60th European Congress of the Regional Science Association International/The European Regional Science Association (ERSA)/Vol.62/2023/pp.1-20/査読無
	論文	杉浦伸・森龍太・大野栄治・森杉雅史/住民参加型再生可能エネルギー事業に関わる代替案の優先順位付け/計画行政/日本計画行政学会/Vol.46, No.3/2023/pp.57-64/査読有
柄谷 友香	論文	柄谷友香, 内山登紀夫, 川島慶子/原発避難生活に伴う自閉スペクトラム症(ASD)児とその母親の経時的な困難と支援ニーズ/都市情報学研究/名城大学都市情報学部/No.28/2023/pp.3-10/査読有
	著書	奥村 誠, 岸井 隆幸, 中井 検裕, 柄谷 友香/復興を描く/公益社団法人 土木学会/2023年9月/978-4-8106-1056-7/pp.23-31
	論文	柄谷友香, 内山登紀夫, 川島慶子/原発避難生活での自閉スペクトラム症(ASD)児とその母親の困難と支援に関する考察/地域安全学会・第52回研究発表会(春季)梗概集/地域安全学会/52巻/2023/pp.289-292/査読無
酒井 順哉	論文	酒井順哉/医療機器添付文書の補完に役立つGS1バーコード活用のためのDXの考え方/第98回日本医療機器学会大会マネジメントセミナー資料集/日本医療機器学会/2023年/pp.55-57/査読無
	著書	中島章夫, 酒井順哉(分担執筆)/医療機器安全基礎講習会(ME技術講習会)共通テキスト, 第III章「医療機器を安全に扱うための電気のトラブル事例と対策」/公益財団法人医療機器センター/2023年/24ページ
	著書	酒井順哉/新医療、連載「勝ち抜く」ための病院インフラ」/エム・イー振興協会/2023年4月~2024年1月/ISSN0910-7991/Vol.50, No.5~Vol.51, No.1の各1ページ
島田 康人	論文	島田康人/公立病院の地方公共団体における財政負担のあり方/都市情報学研究/名城大学都市情報学部/第28号/令和4年7月/26-30/査読無
杉浦 伸	論文	杉浦伸, 森龍太, 大野栄治, 森杉雅史/住民参加型再生可能エネルギー事業に関わる代替案の優先順位付け/計画行政/計画行政学会/46(3)/2023/57-64/査読有
鈴木淳生	論文	Atsuo Suzuki/Perpetual American call option under Fractional Brownian motion model/Journal of Mathematical Finance/Scientific Research Publishing/13/2023/213-220/査読有
張 昇平	論文	Shengping Zhang and Jie Qi/A Study on the Reliability of an Artificial Intelligence Model for Water Environment Evaluation/International Journal of GEOMATE/THE GEOMATE INTERNATIONAL SOCIETY/Vol.25, No.107/2023/220-227/査読有
	論文	Jie & S.P. Zhang/DISCURSIVE CONSTRUCTIONS OF MULTICULTURALISM AND MULTICULTURAL EDUCATION IN JAPAN/Proc. of 2023 Annual Meeting of the American Educational Research Association/The American Educational Research Association/https://convention2.allacademic.com/one/aera/aera23/index.php?program_focus=view_paper&selected_paper_id=2011843&cmd=online_program_direct_link&sub_action=online_program/2023/査読有
	論文	Shengping Zhang and Jie Qi/A COMPREHENSIVE STATISTICAL MODEL FOR WATER ENVIRONMENT RANKING BASED ON MULTIPLE ENVIRONMENTAL INDICATORS /Proc. Of 3th Int. Conf. on Geotechnique, Construction Materials & Environment/The Geomate International Society/ISBN 978-4-909106100 C3051/2023/896-901/査読有
西野 隆典	論文	野々山大树, 鈴木千文, 西野隆典/自己聴取音の感じ方に関するアンケート調査/令和5年度電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会/2023/J6-3/査読無
	論文	山田航輔, 鈴木千文, 西野隆典/野球の打球音の収録とデータセット構築に関する検討/令和5年度電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会/2023/J6-5/査読無
	論文	野々山大树, 鈴木千文, 西野隆典/主観的な印象に基づく自己聴取音声の生成の検討/日本音響学会音声研究会資料/日本音響学会/Vol.3, No.5/2023/SP-2023-40/査読無
昇 秀樹	論文	昇秀樹/2020年代の地方分権/自治研究/第一法規/第99巻第6号/令和5年/37-51/査読無
福島 茂	論文	Querida KHOTCHAREE, Shigeru FUKUSHIMA /The Conversion Tendency of Rental Housing to Airbnb Properties in the Tourism-Centric Districts in inner Bangkok/Urban and Regional Planning Review/City Planning Institute of Japan/ Vol.10, /2023/243-262/査読有
	論文	Querida KHOTCHAREE, Shigeru FUKUSHIMA, Montouch MAGLUMTONG/Architectural Features of P2P Accommodation and its Coverage and Impact on the Rental Housing Market in Inner Bangkok/名城インターナショナル研究/名城大学インターナショナル教育研究センター/Vol.1, No.1, 3-23/2023/3-23/査読有
	論文	Montouch MAGLUMTONG, Shigeru FUKUSHIMA/Characteristics of Condominium Façade in the Metropolitan Area: A Case Study of Bangkok, Thailand/ Proceedings of the 19th Conference of International Development and Urban Planning (CIDUP2023)/The Asian and African City Planning Group, The City Planning Institute of Japan/No.19/2023/90-99/査読無
鈴木 千文	論文	鈴木千文, 坂野秀樹, 旭 健作/歌唱音声における自然性評価のための基本周波数とスペクトルの微細変動増減処理によるビブラート音声の作成/2023年春季音響学会講演論文集/音響学会/2023/pp.845-846/査読無
	論文	鈴木千文, 坂野秀樹, 旭 健作/基本周波数およびスペクトルの微細変動を含むビブラート音声におけるスペクトル変動の有無が自然性に与える影響の調査/2023年秋季音響学会講演論文集/音響学会/2023/pp.1387-1388/査読無
	論文	山田 航輔, 鈴木 千文, 西野 隆典/32 bit float 録音による打球音データセットの構築/2023年秋季音響学会講演論文集/音響学会/2023/pp.369-370/査読無
森 龍太	論文	杉浦 伸, 森 龍太, 大野 栄治, 森杉 雅史/住民参加型再生可能エネルギー事業に関わる代替案の優先順位付け/計画行政/一般社団法人 日本計画行政学会/46巻 3号/2023/pp.57-64/査読有

ゼミナール	氏名	題目	優秀卒業論文(令和5年度)	
稲葉 千晴	佐藤 有里子	沖縄のこれまでの歩み	手嶋 正章	清水 美熙 食料安全保障の現状と食料自給率の向上
大野 栄治	鴨志田 蓮	使用済みペットボトル回収のためのデポジット額の設定	西野 隆典	橋本 青子 5種類の動物の鳴き声に関する各言語のオノマトベ表現の調査・分析
鎌田 繁則	飯田 拓己	充実した老後生活のために若者が今からできる対策について	昇 秀樹	土岐 航 路面電車のこれから～路面電車駆逐の時代から再び路面電車復活の時代へ～
亀井 栄治	小野寺 貴哉	賑わい感の創出に着目したデジタルサイネージを用いる景観誘導手法に関する研究～名古屋市中心部における景観シミュレーションを通して～	福島 茂	荻 祐梨子 名古屋圏における大学生の卒業後の居住地選択とその要因構造
酒井 順哉	山田 大翔	AED 設置位置事前把握のためのAED 誘導表示の有用性に関する研究	宮本 由紀	平野 美由加 愛知県豊橋市における子育て環境の調査と保育施設の立地展開
島田 康人	丹羽 佑太	コロナ禍における大手私鉄の経営と持続的な経営戦略の分析	森杉 雅史	萩原 健人 静岡県一般廃棄物処理事業における広域化計画と財政的效果
杉浦 真一郎	乗田 航希	中山間地域における自家用車に頼らない買い物の可能性	若林 拓	尾関 恵衣 愛知県日進市における高齢者の交通手段選択と介護予防の関係についての考察
杉浦 伸	二本松 寛知	C#によるOR 演習ソフトの機能拡張	田口 純子	長尾 真利 農村地域の伝統文化継承における地域コミュニティの形成～都上市石徹白地域の移住者と地元住民の関係に着目して～
鈴木 淳生	藤井 萌愛	Jリーガーの適切な移籍先および世界のサッカーリーグについての統計的分析	大野 沙知子	伊藤 誓秀 完全自動運転を見据えた生活行動と生活満足度の共分散構造分析と提案
張 昇平	岩田 奈々	水と人間との感覚的距離の計測方法について	森 龍太	岩崎 優希 交流人口から非訪問型関係人口への移行可能性の検討～滋賀県のふるさと納税額と観光客数をもとに～

酒井順哉ゼミナール

第52回日本医療福祉設備学会で「一般演題優秀演題賞」受賞

2022年11月16日・17日に、東京ビックサイト会議棟で開催された「第52回日本医療福祉設備学会」で演題発表した都市情報学部の学生2名(酒井順哉ゼミナール所属の4年生)が「一般演題優秀演題賞」を受賞し、2023年6月15日に開催された医療福祉設備協会総会で公表されました。過去には、大学研究者、民間研究所からの受賞が多かったのですが、その中に大学生が割り込んだ形となります。また、長い歴史のある日本医療福祉設備学会で同一施設から一度に2名が「一般演題優秀演題賞」を受賞したのも初めてでした。

伊藤 翼さんの一般演題は「生活習慣病予防のための健康管理アプリの有用性と機能比較の研究」で、生活習慣病の主な原因である内臓脂肪型肥満の予防を考え、食事管理と運動管理に関するスマートフォンアプリ約500種類の中から機能性に着目して生活習慣病の予防に役立つアプリ23種類を抽出し客観的評価したものです。田邊智之さんの一般演題は「メンタル・ストレスチェックアプリの有用性に関する比較研究」で、厚生労働省のストレスチェック制度で一般事業者に義務付けしているものの、大学生がメンタルヘルスチェックを受ける機会が整備されていない

ことに着目しました。大学生自身が手軽にメンタルストレスチェックをおこなう方法として、スマートフォンで使えるメンタル・ストレスチェックアプリ約800種類について機能性評価4項目および主観的評価4項目で有用性を評価したものです。

既に二人の学生は今年大学を卒業し社会人になっていますが、学会で発表したことに加え、「一般演題優秀演題賞」を受賞したことで、入社後に仕事にその経験が活かされていると確信しています。



大野沙知子ゼミナール

防災意識のきっかけに!子どもと一緒に楽しむ「ぼうさいクイズラリー」

2023年度の地域システム計画ゼミナール(大野沙知子担当)のテーマの一つは「子どもと防災」です。『防災の備えに必要なものを子どもたち自らが選択する力を身に付けてもらう』ことを目指し、「防災リュックの中身を揃えていき、完成を目指す」をゴールにした、「ぼうさいクイズラリー」を開発しました。クイズは

- ①おうちの備えを確認することができる
- ②自分の身を守る行動を考えることができる
- ③親子で防災を話し合うきっかけになる

の3つの内容で考えました。楽しむことと実感することを大切にした「ぼうさいクイズラリー」は、11月4日に開催された大学祭の企画として実践しました。

「ぼうさいリュックに入れるペットボトルの本数は?」の問題では、選択肢の中にある7～8本のペットボトルの水が入ったリュックを持った際に、想像以上の重さに驚いている子がいました。「これではリュックが背負えない?」と実感することで、「どうしたらいい?」の学びにつながったのではないかと思います。災害時の状況を具体的に考えながら取り組んでもらうことで、より防災の備えの大切さを伝えることができたと感じます。



市場という場所から叶えたい。

花のある豊かな暮らしを

卒業生の今

Voice of Meijo OB/OG

vol.6

学部の窓2022(No.27)
でも登場した高澤さん
(当時4年生)卒業後の
彼女の今を追跡取材!!

高澤 怜那 さん

2022年度卒業／鈴木淳生ゼミナール
勤務先：豊明花き株式会社 企画本部



豊明花き株式会社

観葉植物・花苗等の総合卸売市場の運営から商品企画、資材種苗販売、輸出まで手がける花や植物の専門商社。近年はECプラットフォームによるオンライン競売なども推進。花き流通業界のDX化を牽引する。

「花が好き」という思いがきっかけで、市場へ就職

「豊明花き」は、鉢花や資材種苗の総合卸売市場です。私は企画本部の外商部で、取引先の販売動向やマーケットの消費動向を把握し企画するオリジナル商品を、生産者と連携して開発しています。幼い頃の夢はお花屋さんでした。当時のイメージは切り花を扱う小売店でしたが、都市情報学部でさまざまな学問に触れたことで、生産者と消費者の間には販売店や市場が存在し、業界を支える人がたくさん活躍していることに改めて気づきました。ひとつの花がどのように世の中に出ていくのか興味が湧き、花が好きだからこそ市場で働いてみたいと思って志望しました。



ここで生まれた商品を多くの人へ届けたい

現在は「ミディ胡蝶蘭」という小さな胡蝶蘭の鉢花の開発に携わっています。もっと気軽に花を飾る人、育てる人を増やしたいと考え、室内でも育てられる蘭を、日常にフィットするデザインにしてみました。モザイクガラスのプラントポットもオリジナルです。同じ部署の女性と2人で進めている企画ですが、自分たち

が考えたものが形になるのはとてもやりがいがあります。今後はさらに植物の知識を深めて、いろいろな企画ができるようになりたいです。花の勉強をするのは別軸で、外の世界にも目を向けることも大切だと思っています。業界の常識に引っ張られすぎたり、自分の考えが凝り固まったりしないよう、異業種の方々と交流できる場には積極的に出向くように心がけています。内にも外にもしっかり目を向けていくことで、誰も気づいていない需要を掘り起こすような、世の中に求められる楽しい企画を考えていけたら理想です。

都市情報学部での学びが視野を広げてくれた

卒業論文は「花に関する統計調査」で、

アンケート調査をして、ゼミで学んだ統計学の手法で分析し、まとめました。今も消費者の動向をつかむために統計学の考え方がとても活きていると感じています。あとはやはり、学生時代に有松のまちづくりに関わっていた経験が、今の私にいい影響を与えていると感じています。どんな職業でも、詰まるところは「人々の暮らしを豊かにする」ことにつながっていると思います。まずは目の前のお客様を笑顔にすることが最重要ミッションですが、その先の人々の暮らし、さらに豊かになっていくまち全体、そして日本という国全体へ波及していくところまで思いを巡らせることこそが、とても大切な視野の広げ方だと思います。そこが見えているかいないかで、仕事への関わり方や考え方は大きく変わっていくと思いますし、視野を広げることで仕事



の本質にも気づけて、結果的に目の前のお客様を本当に幸せにできると思うんです。こう感じられるのは、大学でまちづくりを学べたからだと確信しています。



“グリーンユーザー”をもっと増やしていきたい

花は、暮らしを豊かにしてくれる存在です。でもそれは、本人が実際に体験しないとわからないんですよね。私は市場という場所から、花のある暮らしの魅力を伝えるために、花を軸にしたモノ・コトを発信していきたいと思っています。花や緑が好きな人のことを「園芸好き」ではなく敢えて「グリーンユーザー」と勝手に呼んでいます。土を触るのが好きな人、花が好きな人、つまりグリーンユーザーをもっと増やし、その輪を広

げていくことが夢であり目標です。花や緑を楽しむ文化自体を育てていくことで、人々の暮らしが豊かになり、まちに緑や花があふれて景観が美しくなっていくと思います。だから私は、多くの人に波及効果のある市場という場所に身を置いています。愛知県は「花の王国」と呼ばれ、花きの生産量も多い地域です。今「市場」というポジションから私に何ができるのかを常に考えながら、グリーンユーザー総人口を増やし、花のある暮らしやその文化を醸成していく、その一端を担えたら嬉しいです。



視野を広げて、好きなことを仕事に

私の場合は「花が好き」という思いから、視野を広げて市場で働きたいという思いへ行き着きました。「好きなことを仕事にする」ために、どんな職業、どんな関わり方があるのか調べていろんな世界に触れてみてほしいです。

就活はゴールじゃなくてスタート！

理想の未来への道筋を考えることで、どこへ就職するか、そこで何をしたいかが見えてきます。就職したらゴールではなくて、大事なのはそこから。まずは妄想でもいいから、内に秘めた夢を諦めず、一歩動き出してみよう！

CAREER DECISION

就職活動体験談

先輩に聞いてみた！

JOB HUNTING STORY OF SENIOR

時間をかけ、視野を広げて 納得のいく就活ができました

情報系について学べる点に惹かれて、都市情報学部に入りました。3年の6月頃からIT業界に絞ってインターン応募を始めて、全部で15社ほど行きました。僕の就活の軸のひとつが「地元で就職」だったので、当初は地元企業ばかり調べていましたが、キャリアセンターで相談した際に「名古屋オフィスのある大きな企業も見てみたら？」と助言をいただき、そこから視野を広げることができました。最終的には、仕事の幅や可能性がより広がりそうだと感じた「伊藤忠テクノソリューションズ」に決めました。少しでも早く仕事を覚えて「村田さんと仕事がしたい」と言われるような頼れるエンジニアになりたいです。

都市情報学部 4年
村田 和輝 さん

内定先
伊藤忠
テクノソリューションズ
株式会社



都市情報学部 4年
尾関 恵衣 さん

内定先
愛知県庁

周囲の手も借りながら 悔いのない、自分らしい就活を

都市情報学部で幅広い学問に触れたことで、元々興味があった土木や交通のほかに福祉にも関心を持ちました。就活は公務員と民間企業、両方ともしっかり知りたいと思い、3年の春からセミナーやインターンに積極的に参加しました。両立は想像以上に大変でメンタルを保つのも一苦労でしたが、最終的に納得のいく答えを出せたのは妥協せずに挑戦できたからだと思います。キャリアセンターにもお世話になりました。漠然とした不安やモヤモヤも、話を聞いてもらうだけで心が軽くなりました。就活は自己分析がとても大切です。他のひとの手もたくさん借りながら、後悔のない就活になるよう、がんばってください！

就活

名城大学就職支援の特徴

1 1～4年次までの個別指導担当制

1年次から内定を得るまでの4年間にわたり、いつでも気軽に進路・就職相談ができる体制をとっています。学生の悩み・就職意識も千差万別で、個別指導・相談体制は非常に重要なものとなっています。

2 【1・2年次対象】進路支援講座

早期からのキャリア観醸成を目的に、1・2年次にキャリアガイダンス、2年次にプレ就職ガイダンスを開催。卒業後にどんな人生を過ごしたいかを考えるきっかけを提供しています。2年次後期からは具体的に自己分析を進めるために、適性検査や自己分析講座を実施。学内企業研究セミナーなどとあわせて、社会や企業と触れる機会が数多くあります。

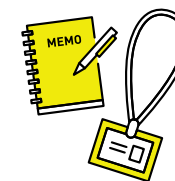
3 インターンシップ（就業体験）支援

近年重要性を増しているインターンシップ等の参加支援、また、その効果を最大化するためのガイダンスを実施しています。応募・選考のための書類対策講座や名城生の採用意欲の高い企業のプログラム紹介など充実した支援を行っています。

4 【3・4年次対象】就職支援行事

「就職ガイダンス」の実施および2023年からは本学独自の自習ツール「Career .Lab.」を展開。適切なタイミングを考慮した情報提供と学生が各自の進行段階に合わせてレベルアップを図れる体制を整えています。さらには「筆記試験対策」「履歴書・エントリーシート対策」「マナー・面接対策」といった各種講座、800社以上もの企業が参加する東海地区最大級の「学内企業研究セミナー」などを開催しています。そして、名城大学の就職支援の大きな特徴である個別指導担当制による「個人面談」では、大規模大学には珍しい学生個人に対する担当職員が相談しやすい関係づくりに努め、就職活動をサポートしています。

また、就職先が決定した4年生および本学卒業生が体験を通じて後輩にアドバイスなどの支援をする「就職アドバイザー制度」や、エアライン業界への就職をサポートする「エアライン就職サポート【M-CAP】」などを含め多彩な学生支援プログラムを実施し、学生が納得した進路決定ができるよう、支援のさらなる充実を図っています。



2024年3月卒の就職動向（6月1日現在）

▶ 採用数は増える見込みも、採用基準は緩まない

2024年3月卒（24卒）学生に対する採用予定数の見通し平均29.5人（昨年26.9人）と昨年に比べて2.5人増加し、企業の採用意欲は増加傾向にあります。一方で採用基準は「23卒並み」とする企業が78.8%、「厳しくなる」は8.8%、「緩くなる」は4.3%となっています。企業の採用意欲や求人数からは前年より学生優位に見える状況でも、簡単に内定を獲得できるわけではありません。自分の良さを理解し、それを相手にしっかり伝えるための準備が必要です。

※就職みらい研究所「就職白書2023」2023年2月21日

▶ 内定率は8割に迫るも半数近くが現在も就職活動中

24卒学生の内定率は、6月1日時点で79.6%と昨年に比べ6.5ポイント高く、現行の就活ルールとなって以降の8年間で最高の数字です。一方で就職活動実施率は45.6%と半数近い学生が就職活動中であり、内定取得者の34.2%が就職活動を継続、このうち20.7%が2社以上の内定を保有しています。このことから、今後は内定辞退、および、それに伴う追加募集が増えると予想され、現在内定を獲得していない学生も粘り強く活動に取り組むことで納得できる進路獲得のチャンスが十分にあります。

※就職みらい研究所「就職プロセス調査（2024年卒）-2023年6月1日時点 内定状況-」2023年6月8日

都市情報学部 就職状況

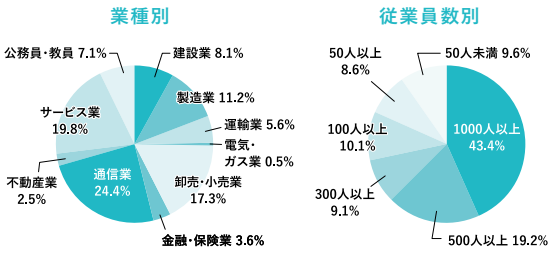
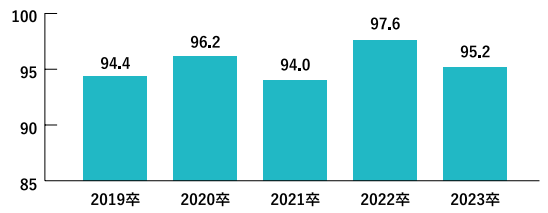
就職率 **99.5%** 実就職率 **95.2%** 卒業生から大学院進学者数を除いた者に対する就職者の割合

文部科学省・厚生労働省の調査では、2023年3月卒業(23卒)の大学生の就職率(就職希望者に対する就職者の割合)は97.3%で、都市情報学部の就職率は、その平均値を2.2ポイント上回っています。都市情報学部の実就職率は昨年に引き続き、高水準を維持しています。就職以外の者は12人で2人が大学院進学、3人が専門学校等への進学や公務員、教員、国家資格を目指す者です。それ以外の7人(昨年4人)はアルバイト等です。

業種別 昨年と比較し、建設業が1.8減、製造業が0.8増、運輸業が0.6増、電気・ガス業が0.5増、卸売・小売業が2.0減、金融・保険業が1.8減、通信業が2.3減、不動産業が2.0増、サービス業が2.5増、公務員・教員が1.7増でした。

従業員数別 従業員の規模別では、500人以上の大企業への就職は合計で62.6%でした。昨年から5.8増となり、6割以上の学生が500人以上の大企業へ就職しています。

卒業生から大学院進学者を除いた者に対する就職者の割合



※民間企業は五十音順で掲載

都市情報学部 主な就職先 30社(2023年4月入社)

アダストリア	JR東海	タカラスタンダード	日本年金機構	三菱電機ソフトウェア	リコージャパン
伊藤園	JR西日本	東邦ガス	日立システムズ	メイテック	名古屋国税局(国税専門官)
大垣共立銀行	静岡銀行	トーエネック	富士ソフト	矢崎総業	名古屋市役所
クリナップ	システナ	トヨタシステムズ	マキタ	山崎製パン	伊勢市役所
サンゲツ	Sky	名古屋鉄道	Mizkan	ヤマザキマザック	岐阜県警察本部

後援会定期総会

令和5年5月13日、158名の参加のもと、令和5年度定期総会を行いました。すべての議案について、過半数の賛成をもって可決されました。総会終了後にはご父母向けに、教務・学生生活・就職活動・大学院についての説明会を行いました。

父母懇談会

令和5年10月28日(土) 13:00~15:30に80名のご父母を迎えて父母懇談会を開催しました。4名の学生と教員2名によるトークセッションは、大学生活、学外活動、就職活動などを学生のリアルな言葉で展開しました。その後、1・2年生のご父母はトークセッションに登壇した4名の学生を交えたグループ面談、3・4年生のご父母はゼミナール指導教員との個別懇談を行いました。

アンケートより

父母懇談会

就職に関しては本人が動くほかないのですが、就職や授業について理解でき、応援しやすくなったと思います。

登壇した学生と自分の子どもの時間割が似ていたため、少し安心しました。

大学がどのように学生の学びをサポートしていたかが伝わりました。次男や三男へアドバイスできる内容を知ることができて良かったです。

先生方のわかりやすい説明で、単位習得や就職活動など鮮明になりました。学生さんたちの素直な気持ちも伝わり大変良かったです。

ガクチカの本来の意味が、自分の思っていた解釈と大きく違っていたことが分かりました。我が子の就職は心配ですが、キャリアセンターの方からアドバイスがいただけると知り安心しました。

上の学年のスケジュールを、直接学生さんから聞けて良かったです。今後の学生生活がイメージしやすいです。

都市情報学部 後援会補助制度のご案内

資格試験等受験料補助制度について

都市情報学部後援会(在学生父母等の会)は、より多くの都市情報学部生の皆さんが資格取得を目指して各種検定試験にチャレンジすることや、資格取得が自信となって就職活動・キャリアアップに繋げることを期待し、各種資格試験等受験料の全額または一部を補助することで支援いたします。

補助内容および支給方法

- ① 各種資格試験等を受験した場合、申請に基づき、一人につき、同年度内において2回まで受験料の全額または一部を補助いたします。
- ② 受験料補助の対象となる資格試験等は、行政書士、宅地建物取引士、等、範囲がありますので学部事務までお問い合わせください。
- ③ 2回の補助額合計は、8,000円を超えないものとします。なお、2回目の申請は、上限までの残額が1,000円以上とします。
- ④ 補助金の支給は、補助申請月の翌月末日までに、学生本人または学資負担者名義の口座に振込で行います。

申請要件(資格)

- ① 名城大学都市情報学部在籍(休学中でも申請可)し、かつ父母が都市情報学部後援会に入会していること。
- ② 都市情報学部後援会が補助対象に指定した資格試験等を受験し、実際に受験したことを証明する資料(写し可)が提示できること。ただし、可否等は問いません。

申請方法および申請期間

- ① 補助希望者は、後援会指定の申請書類等を添えて期間内に申請してください。
- ② 申請期間は、原則として、受験月から翌々月末日までといたします。ただし、3月中の申請分は、補助金支給が4月になりますので翌年度分の補助として取り扱います。そのため、4年次学生による申請は2月末までとなりますが、この場合の補助金支給は、卒業日までに完了いたします。

申請書類

- ① 資格試験受験料補助申請書
- ② 銀行口座振込依頼書 ※通帳の写しを添付
- ③ 受験料領収書(原本のみ)または振込明細書(原本のみ)
- ④ 受験したことを証明する資料(写し可) ※例えば可否通知など

『TOEIC-IP』試験受験料補助制度について

都市情報学部後援会(在学生父母等の会)は、名城大学都市情報学部の学生の皆さんが、実践的な英語能力に自ら磨きをかけて頂くきっかけとすることや、受験料に対する経済的支援を目的として、名城大学ナゴヤドーム前キャンパスで実施される『TOEIC-IP』試験の受験料を補助いたします。

補助内容および支給方法

- ① 名城大学ナゴヤドーム前キャンパスにおいて、実施される『TOEIC-IP』試験の受験料補助として、申請に基づき、1年度につき1人1回のみ受験料を全額補助いたします。
- ② 補助金の支給は、補助申請月の翌月末日までに、学生本人または学資負担者名義の口座に振込で行います。

申請要件(資格)

- ① 名城大学都市情報学部在籍(休学中でも申請可)し、かつ父母が都市情報学部後援会に入会していること。
- ② ドーム前Cで実施された『TOEIC-IP』試験を受験した者。

申請方法および申請期間

- ① 補助希望者は、後援会指定の書類および受験を証明する書類等を添えて期間内に申請してください。 ※申請期間はお問い合わせください。

申請書類

- ① 学内『TOEIC-IP』試験受験料補助申請書
- ② 銀行口座振込依頼書 ※通帳の写しを添付
- ③ 受験料領収書(原本のみ)または振込明細書(原本のみ)
- ④ 『TOEIC-IP』試験スコアレポートの写し

エクステンション講座受講料補助制度について

都市情報学部後援会(在学生父母等の会)は、名城大学都市情報学部が重点課題に掲げる「学部学生の人材高度化支援」に呼応し、本学エクステンション講座を利用する都市情報学部生の皆さんを、対象講座の受講料の一部を補助することで支援します。

補助内容および支給方法

- ① 後援会が指定するエクステンション講座を受講した場合、申請に基づき、一人につき、1講座分の受講料の一部を補助いたします。
- ② 受講料補助の対象となる講座については学部事務までお問い合わせください。
- ③ 補助金の支給は、本学エクステンションセンターに受講料の全額が納入された後、学生本人または学資負担者名義の口座振込で行います。なお、予め納入受講料額から補助金額を差し引くことはできません。
- ④ 補助金の支給期日は、補助申請月の翌月末日まで(3月は卒業式日まで)に完了する予定です。

申請要件(資格)

- ① 名城大学都市情報学部在籍(休学中でも申請可)し、かつ父母が都市情報学部後援会に入会していること。
- ② 都市情報学部後援会が補助対象に指定した講座を受講して、全日程が終了した後に当該講座の出席率が7割以上であったことが確認できること。なお、ナゴヤドーム前キャンパス事務室内のキャリア支援窓口で各講座の出欠状況が確認できます。各自で申請前にお問い合わせのうえ、必ず申請要件を満たしていることを確認してください。

申請方法および申請期間

- ① 補助希望者は、都市情報学部後援会指定の書類を添えて期間内に申請してください。
- ② 申請期間は、当該講座の最終開講日の14日前から3月中旬までといたします。

申請書類

- ① エクステンション講座受講料補助申請書
- ② 銀行口座振込依頼書 ※通帳の写しを添付

☑ お問い合わせ・申請書類の提出先

〒461-8534 名古屋市中区矢田南四丁目102番9
名城大学 ナゴヤドーム前キャンパス
都市情報学部事務室内

都市情報学部後援会事務局

学部長よりみなさまへ

平成7(1995)年4月、名城大学の6番目の学部として、当時の可児キャンパス(岐阜県可児市)に開設された都市情報学部は、令和5(2023)年度末で創立29周年を迎えます。その間、平成29(2017)年4月に、開設したばかりのナゴヤドーム前キャンパス(名古屋市中区)に移転し、現在の姿となりました。学部を取り巻く状況は時代と共に変化しましたが、その都度カリキュラムの改正などを行いながら、一貫して学部設立当初からの目標である「都市問題の解決」「未来の都市創造」のための教育・研究に取り組み、学部の伝統を積み重ねてきました。

令和5(2023)年度は、「コロナ禍」をほぼ脱却した学部運営だったといえます。昨年度までの対面授業・遠隔授業(オンライン実施)の条件が今年度は撤廃され、原則すべての授業が対面で実施されました。それに加えて、昨年度まで授業ではマスクの着用が必須でしたが、今年度は個人の判断で自由となり、以前と変わらない平常時の授業風景となりました。授業以外についても、部活動・サークル活動や学外演習の制限もなくなり、自由に活動できる環境がやっと戻ってきました。突然始まった「コロナ禍」により、種々の制限がかかり不自由を強いられた環境のもとで、学生・教職員ともども、我慢と工夫を重ねながら、予想外の長い期間を乗り越えてきたことを思い返すと、感に堪えません。学生・教職員のみなさまと、支えてくださったみなさまに感謝致します。

令和4(2022)年度から、本学部は新しいチャレンジを始めました。カリキュラムにおける観光分野の科目の充実です。「まちづくり」に対する1つの視点として、観光が非常に重要であるからです。本学部において観光系の科目を学ぶ学生のみなさまに「キャリア認証」プログラムを提供します。要件を満たした方には『キャリア認証プログラム(ツーリズム分野)』の修了証を交付し、観光分野での活躍をサポートしていきます。

続いて、令和5(2023)年度のカリキュラムから「まちづくり実習(CBML)」を導入し、それを支えるためのいくつかの魅力的な科目を配置しました。CBMLとは、Community Based Machizukuri Learningの略で、自治体と連携し、まちづくりを体験的かつ実務的に学ぶ内容です。それまで、正課外の活動でありながらも、大変好評であった事業を正課の授業科目として導入したことで、学生のみなさまの「こんなことが学んでみたい」「こんな風に学んでみたい」という希望に応えられると確信しております。

令和6(2024)年度末に迎える創立30周年を間近に控えて、本学部はさらなる飛躍を続けていきます。本学部の今後にどうぞご期待ください。今後とも、変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

名城大学 都市情報学部 学部長

亀井 栄治

都市情報学部の「学部の窓」とは

光や風を取り入れたり、景色を眺めたりする「窓」。窓には、こちら側とむこう側をつなぐ役割があると思います。この「学部の窓」は、都市情報学部とのさまざまな「つながり」を共有します。

この一冊を通して、地域や社会とのつながり、先生や卒業生、後援会の方々とのつながりを感じてもらえたら嬉しく思います。

学部の窓 No.29 | Faculty News 2024

発行日：2024年3月18日

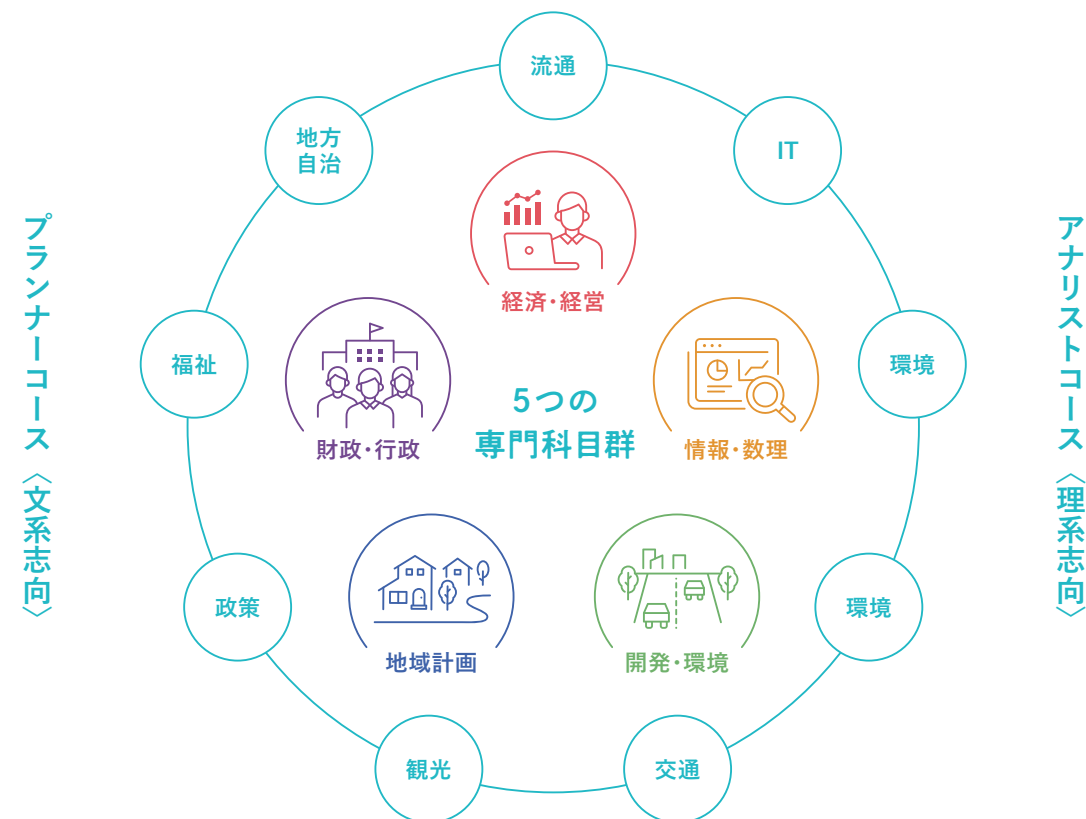
編集・発行：名城大学 都市情報学部 後援会

分析力と創造力で、どんなまちをつくろう。

Make your city attractive with your analysis and creativity!

名城大学都市情報学部は、人が住みやすい新しい都市像を創造し、情報化社会に役立つ人材を育成する全国唯一の学部です。

現在の都市が抱える諸問題を総合的に解決するための視野と知識の修得をめざして幅広い教育を実践しています。



経済・経営

経済学・経営学のアプローチから、企業や地場産業の経済活動を分析。事業のマネジメントや金融、流通などについても学びます。

財政・行政

国や自治体の財政状況と、行政による都市政策を分析します。社会保障や自治、福祉などについてもさまざまな視点で知り深めます。

地域計画

市民のためのまちづくり政策について考えます。都市計画や都市デザイン、防災、交通や観光など、幅広い分野で分析していきます。

開発・環境

まちづくりにおける開発・環境問題について分析。事業構想や地域開発、さらに地域環境の評価や保全、マネジメントまで学びます。

情報・数理

都市問題を分析する手法や考え方を身につけ、研究します。データ分析や数理、情報処理など、情報社会に必要なスキルも磨きます。

学びのステップ

1年次

“都市情報学”とは何か、その概念を知る

一口に“都市情報学”と言っても、その学問領域は広く、文系・理系の枠に留まりません。そこで、1年次に『都市情報学概論I・II』を開講し、今後4年間の学びや研究のテーマを紹介していきます。授業は都市情報学部の全教員がオムニバス形式で担当。都市情報学部の学びの広さに触れることができ、都市問題に対する関心を引き出します。

情報処理の基礎的能力を修得

1・2年次に履修するコンピューター演習科目は、少人数制できめ細かく指導。演習を通して、必要な基礎知識や技能、OS(Windows・Linux)の操作方法や、コンピューター言語(VB・C言語)などを学び、高度情報社会で活躍できるスキルを身に付けます。

新しい都市の創造をめざし、5つの専門科目群を設置。少人数ゼミナールにて問題発見・解決能力を育てる

主に3年次では進路志望に沿って各科目群の科目を横断的に学習します。ゼミナールは1ゼミナールあたり8人前後の徹底した少人数教育で行います。3・4年次の2年間にわたり、対話や討論、実習、調査等を通じて問題の分析および解決の能力を養い、発表等の技術を身に付けます。各自の研究テーマは卒業論文としてまとめ、発表します。

